日大通教 校友会報

発行所
日本大学通信教育部校友会
〒102-8005
東京都千代田区九段南4-8-28
TEL・FAX 03（3234）5858
発行責任者 白戸 忠志
編集責任者 師田袈裟茂

子、四を絶つ。
意なく、必なく、固なく、我なし。
子は四つのことを絶たれた。
勝手な心を持たず、無理おしをせず、
執着をせず、我を張らない。
『論語』

平成27年5月23日開催 第44回定期総会報告

会長挨拶

日本大学通信教育部校友会
会長 白戸忠志

本日は全国から校友の方、役員の方、大勢のご出席をいただき有難うございます。

平成27年度第44回通信教育部校友会定期総会に当たりご挨拶を申し上げます。

昨年度の定期総会で選任されました役員の方々により一年が経過しました。

この一年、校友会に対し、皆様からのご支援・ご厚情に感謝申し上げます。

先ほど平成27年度第一回の三役会が開催され、この定期総会に提出の議案などの検討や各ブロック長より活動報告が行われました。各支部にとりましては会員の高齢化による役員候補者の不足・会費収入の減少など厳しい現状であるとの報告でした。

昭和47年5月に発足した私たちの校友会は今年で43年になり、今年3月の卒業生340名をお迎えし正会員数が33,605名となりました。先輩の築かれた通信教育部校友会をこれから皆さんと共に発展させていかねばなりません。

役員の方には昨年度より改正となりました役員会費を総会前にお支払いをお願いしました。

ご協力いただきました方々に感謝申し上げます。

本部正会員制度にご参加の際に振込み用紙の支援支部欄に「通信」とご記入をお願いしておりましたが、今回他支部支援の方に通信支援にお願いしましたところ通信支援に変更していただきました35名の方々に感謝申し上げます。

これからも通信課程で卒業された方には通信支援の新規お願いを継続します。

通信教育部校友会では、日本大学の通信教育課程で学び卒業すれば、通信教育部校友会の正会員となります。（会則第6条の1）

また、専攻された学部の卒業生でもあります。各学部にはそれぞれ校友会があり、会員相互の親睦・向上と大学の振興に寄与することを目的に活動しています。また都道府県にもオール日大校友会の支部があります。

この学部別校友会と同等に通信教育部校友会が活動できるのも43年前に通信教育部校友会設立にご尽力いただき、今日までの発展にご協力いただいた諸先輩のお力です。

少子高齢化はこれからも進みます。望めば大学での勉学は誰でも受けられる時代になっております。通信教育は老若男女を問わず全国で学べる学習方法です。

キャンパスの市ヶ谷移転により入学生の増加があったと伺いました。

校友会でも学生の増員にこれからも積極的に取組んでまいります。また、学生の支援にも大学に協力し、学友会と共に取組み、卒業生が増えれば校友会の活性化もつながります。

これからの通信教育部校友会の発展は支部の活性化が不可欠です。ブロック総会・支部総会の開催に補助をし、本部総会の出席には交通費、また会報発送にも補助費が算入に組まれております。支部発展に活用してください。この補助費請求はその年度内で処理をお願いします。口座振替教育部校友会が、益々発展するように役員一同今年も頑張ってまいります。今までと同様ご理解とご協力をお願いし、第44回定期総会のご挨拶といたします。

部長ご挨拶

日本大学通信教育部
部長 福田弥夫

古書店が並ぶ学生街の神田三崎町からオフィス街の市ヶ谷へ。駅の雰囲気もそして乗降客の様子もだいぶ違い、未知との遭遇に戸惑うことの多かった移転当初でしたが、あれから1年近くがたち、日本大学通信教育部は市ヶ谷の新しい顔になりつつあります。

靖国通りに面した8階建ての新1号館は、周囲のビルともよく調和し、「日本大学通信教育部」のサインはJR市ヶ谷駅からも見ることができます。驚くことに、三崎町時代とは異なる周囲の環境が、逆に新入生の増加につながってきています。ある新入生の方のお話です。「どこかの大学で通信教育を利用して学びたいと考えていたのですが、市ヶ谷駅で降りてふと見上げたところ日本大学通信教育部のサインが目に入り、これだと思って入学を決めました」。私たちが予想していなかった移転の効果がここにありました。

JRに加え、都営新宿線、東京メトロ有楽町線と南北線が乗り入れるこの市ヶ谷は、乗降客数も水道橋を大きく上回ります。新校舎は、人通りの絶えないメインストリートに面していることから、校舎入口のラックに用意している「通信教育部入学案内」は、私たちの予想を超えるペースでの追加補充が必要となっています。この入学案内書の状況に比例して、入学説明会の参加者数も三崎町時代を凌駕しています。スクーリングの日大との定評を得ている本通信教育部にとって、交通の便は重要であることを再認識しています。

私が通信教育部長に着任して10月で満5年となります。これまで減少傾向が続いていた新入生ですが、おかげさまで平成27年度の前期入学者数は、正科生合計で5年ぶりに1,400名を超え、3年ぶりに前年比でプラスとなりました。全盛期の15,000名の在籍者には遠く及びませんが、少しでも学生数を増加させようと、教職員一丸となって努力を続けています。

また、広範にわたる学士号取得の希望者に応えるべく、専門学校との協力も進んでおり、本年3月には茨城県を本拠地とし、複数の専門学校を経営する晃陽学園と連携協力の協定を結びました。晃陽学園の理事長である齋藤氏は日本大学の卒業生であり、「日本大学における学びの素晴らしさを、ぜひ自分の学校の生徒たちにも経験させたい」との思いから、通信教育部との協力を強く希望されました。具体的な内容としては、科目履修生制度を活用して、専門学校を修了後に短期間で学士号を取得できるようなプログラムの実施に向けた連携協力であり、サテライトスクーリングの活用などが予定されています。このような形での連携協力を希望する専門学校も複数あり、現在交渉を進めているところです。

教員スタッフの拡充も進めています。今年の4月には2名の新しい専任教員を通信教育部にお迎えすることができました。英語担当の小澤賢司先生と哲学担当の中澤瞳先生です。お二人とも文理学部の博士後期課程のご出身で、小澤先生は文学専攻英文学スタッフの充実のために、中澤先生は故本間司先生の後任として着任されました。お二人には、スクーリングと卒論指導はもちろんのこと、複数のメディア教材の作成を担当していただき、メディア授業の一層の充実に全力を傾けていただくことになっております。

このように、新校舎移転に加え、指導スタッフの一層の充実を図ることによって、日本における大学通信教育のオリジナル・ファイブの一員としての地位を揺るぎないものとしてゆく所存です。

伝統の夏期スクーリングは、例年通り神田三崎町の法学部校舎を中心として、8月1日から21日にかけ、6期にわたって開講されます。学生数の増加に伴い、各講座の受講生も例年より増える見込みであり、現在その準備に余念がないところです。今年の梅雨は例年より長いものの、関東は猛暑が予想されておりますが、暑さをものともせずスクーリングの受講に集中する学生たちの姿で、神田三崎町は賑わいを見せることでしょう。

通信教育部校友会の皆様には、これまで三位一体の方針のもと、暖かいご支援を賜って参りましたが、今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。日本大学通信教育部校友会のますますのご発展と、校友会の皆様のご健康を祈念し、夏のご挨拶とさせていただきます。

表彰規定の運用の基準

校友会会則 慶弔慰・表彰 第2章 表彰 第6条（表彰の対象）の規定に基づき、本会の発展に貢献した者及び記念品に要する費用の運用の基準を次のように定める。

第1条 第6条3項の多年にわたり会務遂行に尽力し、本会の発展に貢献した者とは次の1から3項を充足する者及び4項該当者をいう。

1 本部役員または支部役員経験年数 3期9年以上（通算年数でも可とする）

2 役員経験年数 3期9年以上（通算年数でも可とする）

3 本部役員会費または支部役員会費納入者

4 米寿（88歳）になった者

米寿該当者とはアからウ項を充足する者をいう。

ア 支部（本部）役員を15年以上勤め、会費納入者

イ 本部総会またはブロック総会に計4回以上出席し、貢献した者

ウ 当該年度の4月末までに米寿（88歳）になった者

第2条 第7章 表彰の種別

第1項・第2項 記念品に要する費用について定める。

1 1項の記念品に必要な費用について定める。

6条1、2、4項該当者 3000円

6条3項該当者

本部役員 3000円

支部役員 1500円

2 2項の記念品に必要な費用について定める。

記念品 3000円

特別表彰について（米寿）

1 表彰規定運用の基準

2 各支部長へ

該当者の推薦依頼

■平成27年度の対象者

昭和2年5月1日～3年4月末日生まれの者

（ただし、初年度は昭和1年5月1日～3年4月末日生まれの者とする）

■平成28年度対象者

昭和3年5月1日～4年4月末日生まれの者

以後はその年度で実施する。

3 表彰の時期

その年度の本部総会またはブロック総会

（ただし、27年対象者は、本部総会に時期的に間に合わないので、ブロック総会で表彰する）

総会議事報告

第44回総会は、香川県支部長高橋治子氏を司会として進行した。

◎校歌斉唱

指揮 副会長 富澤良光氏

副会長三村洋一氏の開会の辞によって始められた。

◎会長挨拶 白戸 忠志氏

◎議長団選出は執行部一任により、鳥取県支部長安田亘之氏と山口県支部長佐伯和夫氏が選出された。

◎議事録署名人

大分県支部長代理 中屋敷裕一氏

鹿児島県支部長代理 牧迫 正見氏

◎議事録作成書記委託

事務職員 小川 雄氏

◎議事

第1号議案 会則改正について、総務部長肱岡堅二氏より説明した。

第1号議案は承認された。

第2号議案 各部報告

①総務部活動報告

総務部長 肱岡 堅二氏

②組織部活動報告

組織部長 鎌子 健氏

③広報部活動報告

広報部長 師田袈裟茂氏

④財務部活動報告

財務部長 山本 良吉氏

⑤渉外部活動報告

渉外部長 鈴木 孝司氏

第2号議案は承認された。

第3号議案 平成26年度事業報告

幹事長 鈴木 勝氏

第4号議案 平成26年度決算報告

会計 江崎 泰元氏

第5号議案 平成26年度監査報告

監査 高垣むつ子氏

第3号議案～第5号議案は承認された。

第6号議案 平成27年度事業計画（案）

幹事長 鈴木 勝氏

第7号議案 平成27年度予算（案）

会計 熊本 昭典氏

第6号議案、第7号議案は承認された。

第8号議案 その他、校友会旗寄贈の件について、幹事長鈴木勝氏より説明した。

第8号議案は承認された。

議長団解任、審議終了とする。

◎感謝状授与者

神奈川県支部 故大坪武雄氏

◎表彰状授与者

（本部表彰）

東京都支部 内藤セツコ氏

広島県支部 太田 順夫氏

愛媛県支部 山内準一郎氏

（支部表彰）

大分県支部 須藤 重雄氏

〃 桝田 穂積氏

鹿児島県支部 西川 幸弘氏

白戸忠志会長より授与された。

副会長松尾志郎氏の閉会の辞により、総会は終了した。

◎各ブロック別懇談会

ブロックごとに支部長以下が集まり、ブロック総会などのことについて相談した。